



看護業務の効率化先進事例アワード 2023

# 業務量調査から見えた 業務負担とその改善策

—チーム活動を円滑にする通信機器の活用—

自治医科大学附属

さいたま医療センター

特別賞

## 自治医科大学附属さいたま医療センター

### 病院理念

1. 患者中心の医療
2. 安全で質の高い医療
3. 地域に根ざした医療
4. 心豊かな医療人の育成



所在地 埼玉県さいたま市

病床数 628床 ※2023年12月1日現在

主に算定している  
入院基本料 急性期一般入院料 1  
特定集中治療室管理料 1  
救命救急入院料 1

看護方式 固定チームナーシング

職員数 1531名 ※2023年12月1日現在

うち看護職員数 795名

HP <https://www.jichi.ac.jp/center/>

## 働きやすい職場環境が求められている

一般病棟の  
時間外勤務が  
平均15時間/月/人

今後、プラチナ  
ナースなど多様な  
看護師が増加する

働きやすい職場環境の  
整備が必要

「人員数が適当」  
の職員満足度が  
低い

看護師から「患者  
と関わる時間を確  
保したい」と意見  
がある

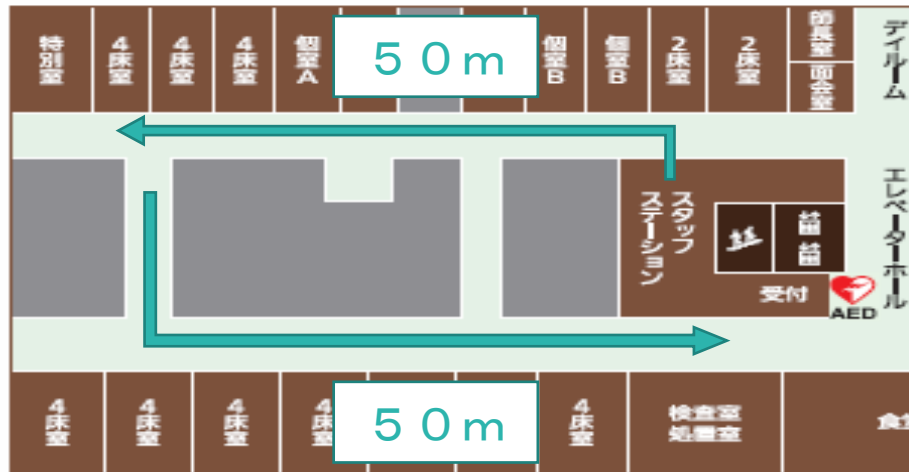


2022年6月  
業務改善を目的  
に業務量調査を  
実施



看護師間の報告・連  
絡に時間を要してい  
ることがわかった

## 課題 | 看護師間の報告・連絡の業務を改善する



当院は奥に長い構造のため  
1周約100mある

- リーダーが連絡相手の看護師を探して病棟内を一周することや、メンバーがリーダーへ報告するためスタッフステーションへ戻ることもある
  - 看護師へ一斉に連絡する方法がない（連絡手段としてナースコールの使用は禁止している）
- ➡ 移動や伝達事項の周知に時間を要するため、効率的に報告・連絡ができていない

## 目的

- ①看護師間の報告・連絡の効率化を図る  
時間・移動距離の削減
- ②看護実践の時間を捻出できる

## 目標

- ①人力に頼らない報告・連絡の方法を見出す
- ②①で見出した方法を運用できる
- ③①・②により、看護実践の時間を捻出できる

## 方法

- ①目的達成するための方法を検討  
導入のしやすさ・検討体制・予算など資源の獲得
- ②運用方法の決定  
情報伝達デバイスの選定・トライアル・運用
- ③情報伝達デバイスの運用の評価、修正

# 取り組み内容

## 1 情報伝達デバイスの選定

2022年8月 業務担当看護副部長が中心となり、人に頼らない報告・連絡方法を看護部長・看護副部長で検討した

	PHS	トランシーバー	インカム
複数人への通信	できない	できる	できる
同時通話	できる (双方向通話)	できない (交互通話)	できる (双方向通話)
免許	不要	場合により必要	不要
操作の特徴	相手のPHS番号を入力する	通信時は本体を口元に近づける	通信時に通信ボタンを押す

インカム（インターコミュニケーションシステム）  
を採択

## 情報伝達デバイスのトライアルと機種選定

2022年11月 インカムのトライアル

COVID-19対応のため救命救急センターで使用していたインカムを用いて一般病棟（1部署）で2週間トライアルを実施

### 【看護師の意見】

- 「報告の相手を探さず連絡できるので、すごく楽です」
  - 「インカムの操作はすぐに慣れました」
- ➡ 看護師の意見を鑑みてインカム導入を最終決定した  
その後、事務部長へ要望書を提出し臨時的な購入予算を得た

### 当院のインカムの機種選定条件

通話可能距離	病棟内で使用するため200m程度
通信の条件	医療機器に影響がない、隣の病棟と混線しない、免許不要、インターネット通信が不要
同時通話可能人数	7人以上の同時通話が可能である
操作性	簡単な操作・設定
費用	安価である
その他	小型で軽量、アルコール清拭ができる

## 3 情報伝達デバイスの導入

2023年1月 すべての一般病棟10部署に10台ずつ配置

師長会	業務担当看護副部長 ⇒ 師長	業務量調査より情報伝達に時間を要している現状がわかったため、情報伝達の業務効率化を目的にインカムを導入することを説明した
各部署	業務担当看護副部長 ⇒ 看護師	導入目的・インカムのメリット・使用方法を説明した後、使用を開始した

- 看護師は1日でインカムの操作に慣れ、目的に合った使用が行えた
- インカムの操作に慣れた後、夜勤で使用を開始した
- インカムが不足した場合はリーダーと頻回に連絡が必要なメンバーが優先的に使用するなど、詳細な運用は部署に一任した



## 1 | 報告・連絡に伴う時間の効率化が図れた

## 時間の効率化

リーダー看護師1名が  
看護スタッフを探す回数 **×**  
**28回**  
(日勤8時間のうち)

病棟1周 (100m) に  
要する時間 **=**  
**70秒**

**= 1960秒/日**

**÷ 32分7秒/日**



**看護師を探すための時間が減少した**

## 2 | 報告・連絡に伴う移動距離の削減が図れた

### 移動距離の削減

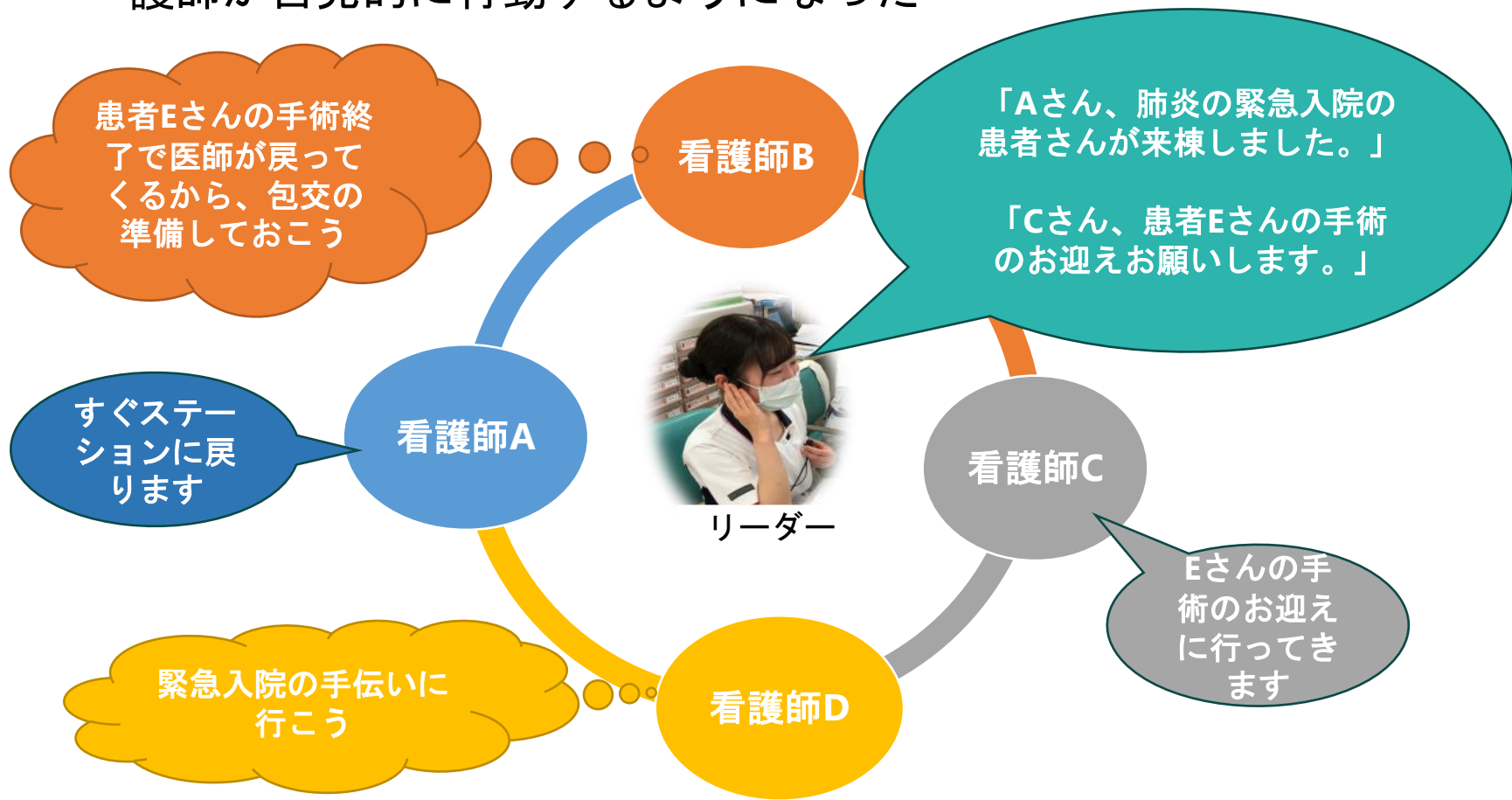
$$\begin{array}{l} \text{リーダー看護師1名が} \\ \text{看護スタッフを探す回数} \\ \mathbf{28\text{回}} \\ \text{(日勤8時間)} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{病棟1周の} \\ \text{距離} \\ \mathbf{100\text{m}} \end{array} = \mathbf{2800\text{m/日}}$$



**看護師を探すための移動が減少した**

## 1 チーム間の業務連携がスムーズになった

- ・ インカムの会話を通じて病棟の動きを把握できることで、看護師が自発的に行動するようになった



## 2 適時性が確保された

- メンバーのベッドサイドからの報告・相談に対し、リーダーが質問しながら状況確認を行うため、即座に対応できる
- 病棟看護師に対し、一斉に連絡できるのでケア実施までのタイムラグが減った
- インカムの会話を通じて病棟の動きがわかり、看護師が予測した行動を取れるようになった

## 3 時間が捻出できた

- 看護師を探す時間がカンファレンスや看護ケアに変わった
- 患者に必要な看護実践ができることや日々のリフレクションが、やりがいやモチベーション向上につながる

## 4 業務の中断時間が減少した

- インカムの装着で、探すことや移動することがなくなり、業務を中断せずに情報伝達ができる
- リーダーは業務の中断時間が減り、本来の固定チームナーシングの日々のリーダー業務ができるようになった

## 5 療養環境が改善した

- 看護師を探す呼名がなくなり、患者にとっての雑音が減少した

# 取り組み導入のポイント

## 1 施設に合った機種を選定する

- 使用部署の構造、遮蔽の有無、使用範囲、通信方法、費用などを考慮して機種を選定する
- トライアルで操作性、使いやすさを確認する

## 2 特徴・メリットを看護師にアピールする

- インカムの会話を通じて病棟の動きがわかり、予測した行動がとれる
- 業務の効率化により、本来の看護業務に専念できる
- 移動距離の削減により、身体的疲労の軽減を実感できる

## 3 導入後の困りごとに対応する

- 接触不良による充電ができなくなる故障が多く、マグネット充電ケーブルと修理中の代替機を導入した  
(運用についての困りごとは今のところ報告なし)

## 1 インカムの活用を拡大する

- 中央手術部・外来・集中治療部での使用を検討する
- 看護補助者にインカムの使用を拡大する
- 指導者に適時相談できる環境を利用して教育的な関わりを強化する

## 2 情報伝達に多様なデバイスの活用を検討する

- インカムによって部署内での報告・連絡が効果的に行えたため、看護部（看護部長・看護副部長）への報告・空床報告・伝達会議や部署間でも多様なデバイスを活用して業務効率化を図る